

[18] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20383>

出版情報 : radix. 18, 1998-09-20. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :



radix

radix(ラーディクス)は、根、根源を意味するラテン語。ヒトの根源にまなざしを向け、豊かなこころの根を広げたい。

1998 9 .30

九州大学全学共通教育広報 No. 18

アジアと日本 5

上海「新漫画」事情

日下みどり…2

「2002年の韓・日ワールド

カップ大会」の共催に向けて

黄 在顕…4

ああ、田島寮祭……内野 佑一…6

サークル紹介 10

バドミントン部について

脇田 健一…7

相撲愛好会の廃部危機

木村 洋…8

Welcome to our 書道部

太田 星…9

パレード、開会式、

そして総合優勝

山本 直也…10

総合科目

相互援助による自分探し……12

他人に頼ることは恥？

ー学生生活・修学

相談室のご案内ー……16

新任教官自己紹介……末吉 豊…18

九大祭の書展へ向けて

太田 星…18

海外留学説明会の開催について……19

六本松地区教職員異動(省略)……19

あとがき……20



「龍」 書 文学部4年 丸山 隆蔵 (18頁参照)



上海「新漫画」事情

くさ か みどり
日下 みどり

上海に来て早くも三ヶ月余りが過ぎたが、その間、何冊かの漫画雑誌を目にする機会があった。聞けば、これらの漫画雑誌が発行され出したのはここ数年のこととか。その中で目についた雑誌を紹介し、あわせて上海漫画の「今」についてながめてみたい。

雑誌「卡通王」は「漫画王」

漫画雑誌の中でもひとときわめだつのが「卡通王」。^{カートン王} A4版の大きさのカラフルな表紙がまず目につく。卡通(カートン)とは英語の cartoon の音訳。最近急に使われだしたとかで、ある中国人学生に聞くと、「老人にはわからない言葉です」とのこと。もっとも、日本の辞書(『中日辞典』小学館一九九二年)にはすでに載っており、意味は「1 動画、アニメーション、2 漫画」とある。アニメと漫画、双方の意味を持つ。「漫画王」ではなく「卡通王」とする所が上海風かもしれない。発行は上海電視台・上海美術電影制片廠主催。上海電視台(上海テレビ局)はテレビでも「卡通王」というアニメ番組を放映している。



上海の「卡通王」

雑誌「卡通王」は、一九九六年4月から面目を一新し、「百パーセント中国漫画」となったという。純国産という点が、日本漫画の翻訳専門雑誌である「漫画公主(漫画姫)」や「卡通王子」(いずれも一九九八年1月創刊)と異なる“売り”であろう。

「新漫画」の特徴とは?

「卡通王」を読んでまず気づくことは、作品の他に毎号寄せられる読者たちの意見が野暮ったいくらいに真面目なこと。中国漫画界の発展を思い、さまざまな問題提起や作家達への評論、批判、苦言が続く。中には「私は中国の漫画は必ずや“小学生の作文”から“大学生の論文”レベルへ発展すると信じる」といった叱咤激励型の文もある。ここではその中でも特に興味深い文を紹介しよう。「卡通王」一九九八年5月号の巻頭には、漫稚芹の筆名で「漫画の“音声”浅談」と題する次のような文が載せられている:

新漫画はなぜ伝統的な連環画と比べ、よりいっそう人を引きつけるのだろうか。それはつまり新漫画が、美術と感覚芸術とが一体となって(特に“音”)融合し、抽象的で深奥なものを通俗でわかり易いものに変え、読者を作者の内心世界へと引きつけ、対話させることができるからである。そしてこの、読者を導く形の無い手こそが新漫画の“音声”なのである。

そう言う、きつこう尋ねる人がいるに違いない:「漫画はテレビドラマとは違う。筆で表現したものにどうして音があるだろうか?」と。まさにこれこそが新漫画の重要な特徴なのである。“音”は新漫画にテレビドラマと比べてより一層の特殊な優越性を持たせ、新漫画を“カバンの中のテレビドラマ”とでも言うべきものへと変えたのである。

氏はこれらの音声は物語りの会話に使われる他にも、内心の声や感情の動き、情景や気分の処理にも使われ、“大声、小声、心理”さらには対話の軽重や緩急、表

情や動作までも表わすことができるという。そして、「これらの音のない“音”が、漫画では我々の耳に聞こえる“音”となる」とその効用を最大限に評価する。確かに、内心の思いや細かな感情のゆれは、テレビドラマより漫画の画面の“音”の方がよりよく読者に伝わるようだ。例えば我々がよく目にする“ギクッ”“ドキッ”“ニヤリ（中国語では“微笑”と訳す）”“（汗が）タラー”などといった言葉は、実際は音声ではない。しかしこれらの“音”で、情景や登場人物の心理をよりよく理解することができるのである。それらは我々の言語生活に入りこみ、声に出して「ギクリ」「ドキッ」「（汗が）タラー」「しくしく（泣く）」と言ってみたり、あるいは驚きを表現するのに「目が点になる」などと言うことは、今ではごく普通になっているようだ。

漫稚芹氏はこのように“音”の効用を最大限に評価した後で、中国の作家達に苦言を呈する：「日本漫画の作者たちはこれらの“がたん”とか“ぱちぱち”といった擬音を変形させたり、文字を太くしたりして使うが、我が国の漫画家たちもその真似をしている。もちろん模倣や借用は悪いことではないが、真似をするにも“これは何か、何の為か”をはっきりさせておかねば読者の失笑を招くだけである」——氏はこのようにやみくもな模倣をいしめた上で「“音”の重要性を認識して上手に使えば“其の画を観れば、其の音を聞くが如し”の効果をあげられるであろう」と結ぶ。これは“新しい文化としての漫画”をより良く理解しようとの意識があるからこそできた分析であろう。

「新漫画」を創った手塚治虫

この文章を読んではっと気づいたことがあった。氏は、「新漫画」は連環画とは違うと言う。氏の言う「新漫画」が、日本漫画を代表とするそれを指すことは疑いない。戦後、手塚治虫がそれまでの漫画とはまったく異なる、画面から車がとび出してくるような動きと音のある漫画——紙に書いた映画とでも言うべきもの——を創り出した時、我々はそれを従来の漫画と区別して「新漫画」とでも呼ぶべきだったのだろう。それはスナッフ写真が動き出して映画が誕生したのと同様の、新しい芸術の誕生であったからである。それ故にそれは多くの読者の心を捉え、手塚の後継者たちが続々と育っていったのである。中国の“卡通”という言葉（連環画という意味は無い）にも、外来語を使うことで、従来のものと区別しようとの心理が働いて

いるのかもしれない。今さら手おくれであるが手塚治虫が出現した時、単なる漫画とは異なる別の名をつけて評価していたならば、それはもう少し早く新しい文化として市民権を得ていたかもしれないのである。

上海は進歩的、北京は保守的？

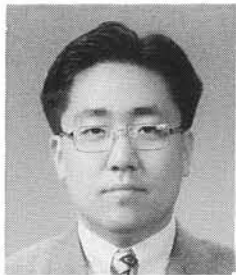
「卡通王」と対照的なのが北京の「少年漫画」（中国連環画出版社主催）。これは表紙に“友情、奮闘、進歩”というどこかで聞いたようなうたい文句をかかげ、内容も「黒血古怪伝」（趙佳作）をはじめ、なかなかの力作ぞろい。さらに「漫画文法浅探」という「漫画の文法」講義も連載するといった意欲的な雑誌である。しかし、主催者が主催者である為か、中に連環画の名作紹介を載せる。「伝統を守れ」との主張かもしれないが、新しい漫画を「新連環画」としてしかとらえられないセンスの古さが誌面の勢いを削いでいるようだ。「新漫画」と連環画の違いに気づき、古いしつぽを断ち切って新しい表現を生み出そうと努力している「卡通王」のパワーが一段上であろう。



北京の「少年漫画」

新しいものを理解し、貪欲に吸収してゆこうとする上海、実力はあるながら伝統のしがらみから抜け出せない北京——と言い切ってしまうのは少し乱暴だろうが、漫画を通じて文化受容の差をながめてみるのもまた、一つの方法ではないかと考えている。

（比較社会文化研究科）



「2002年の韓・日ワールドカップ大会」 の共催に向けて

経済学研究科 博士後期課程1年 ファンゼヒョン 黄 在 顕

第15回のフランス・ワールドカップ大会が、7月12日フランスの優勝でその幕を閉じた。5大陸から予選を勝ち抜いた32カ国による熱い戦いは、全世界の人々に感動と夢を与えてくれた。4大会連続出場の韓国と大会初出場の日本は、それぞれ世界の高いレベルに挑戦して試合に臨み、自分なりの結果と反省点、悔しい気持ち等を残しながら、第1次予選でその姿を消した。

ここで私が話したいのは、その試合の内容とかサッカーの戦術的なことではない。これから4年後に開かれる韓・日共催のワールドカップ大会を契機として両国の理解と友好関係を深める方法について考えてみたい。



韓国と日本は「近くても遠い国」という言葉で象徴されるように、過去の歴史問題から現在の経済問題まで様々な面で複雑に絡み合っている。それはまた両国の友好関係に大きな壁として残されている。もう少し、率直に言うとな国民の心の中で刻まれた先入観と過去の認識が両国のありのままの姿を見えなくしているかもしれない。私は日本に来て4年目になるが、4年前に比べて日本に対する認識は現在かなり変った。その原因は様々であるが、まず挙げられるのは日本に関する情報が増えたことである。韓国にいるときは、本やマスコミからの情報がほとんどであった。



しかし、直接日本に来てみて、自分が日本人とふれあうことで、以前とはかなり違った印象を受けるようになった。自らの経験によって、漠然とした先入観は希薄になった。日本も韓国も同じ人間が暮らしている社会であり、それほど変りはない。むしろ韓国人が日本人から学んでほしい様々な長所が見え始めたのである。自分に任された仕事に熱心な日本人を見ながら日本の強さを感じたことは数えられないほど多い。



私の個人的な考えとしては、2002年ワールドカップ大会の韓・日共催は最善の結果であったと思われる。全世界の人々が見る前で日本と韓国が協力し合って大会を成功させれば、いかに素晴らしいことであろうか！ 国際化・世界化が進む中で、過去の歴史を超えた新しい友好時代への出発点になるに違いない。

これはワールドカップ大会の開催から得られるいくらかの金銭的な利得を超えた両国の本当の利益になるだろう。世界は今、速いスピードで変化している。経済的にはもう国境の意味が非常に薄くなっている。EUやNAFTA等の結成によって、世界の地域は自分の利益を守るため、ブロック化している。それに比べて東アジアの場合は、経済的・政治的にその重要性が高まりつつあるにも関わらず、協力関係の面においては非常に遅れている。



日本と韓国のより一層の協力関係は東アジアの安定、世界の平和にも貢献すると思われる。例えば、イギリスとフランスは海底トンネルによってつながっている。もし、日本の福岡からプサンまで電車で行けるとすれば、それは想像だけでも素晴らしいことであろう。その意味でも韓国と日本の経済的な協力、文化の交流、政治的な安定は両国民の利益にすぐつながることであり、東アジアの発展につながることである。今回の韓・日のサッカーを通じた協力関係を契機として、これからは経済、文化、芸術等の社会のあらゆる面での交流を深めて行くことが大事であると思われる。

2002年のワールドカップ大会を成功させるためには、政府レベルから民間レベルまで様々な交流と協力が必要である。これから行われる様々な交流は日本と韓国の関係を改善し、理解を深めるだろう。個人個人が直



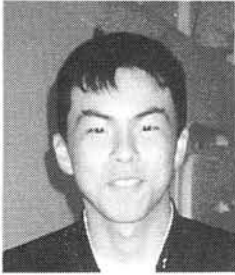
接経験するふれあいを通じて両国の交流活動は活発になるとと思われる。そういった意味で2002年のワールドカップ大会の韓・日共催は関係改善の絶好のチャンスであり、両国民の理解を深める契機になるだろう。

この絶好のチャンスを如何に生かすかはこれからの課題であり、工夫の必要なところである。私は2002年大会の準備過程を見守りながら関心を持つことが、まず大切だと思われる。これから行われる様々な準備活動にボランティアとして参加したり、パートナーの一人として両国民が互いの言葉とか文化などに関心を持つことも理解を深めるひとつの方法であろう。

20世紀の暗い歴史のトンネルを通りぬけた電車は、現在新しい21世紀の歴史に向けて力強く走っている。この電車の中間の駅ともいえる2002年ワールドカップ大会を成功させ、新しい韓・日関係を作り直すことが我々に残された課題であると思われる。



写真は全て1998年ワールドカップフランス大会の模様
撮影 吉田 毅 氏(健康科学センター)



ああ，田島寮祭

第42回寮祭実行委員長 経済学部2年 ^{うち} ^の ^{ゆう} ^{いち} 内野 佑一

〈はじめに〉

6月とともに僕らの青春が去っていった。7月をむかえちょうどそんな心境だった。この2ヶ月間、いやこの1年と言ってもいい、寮祭に全てをかけていた。寮祭さえうまくいけばそれでいいとさえ思っていた。自己満足に近いものかもしれないが、それでもいいと思っていた。僕ら田島寮生が田島寮生らしく輝くことの出来るのがこの寮祭なのである。そんな寮祭をおえて今、まるで生気を吸い取られ、抜け殻になってしまったかのようなのである。

〈回想・前夜祭〉

寮祭を振り返るうえで忘れられないのが、前夜祭である。この前夜祭しだいで各棟の禪のいろがほぼ決まってしまうからである。それだけに1年生も本気であり、僕ら実行委員も真剣にならざるをえない行事である。勝負の世界に勝ち負けはつき物である。出来る事なら結果は出たくなかった。A、B、Cと棟ごとに1ヶ月間競ってきたが、順位なんてもうどうでも良かった。僕は1年生が寮祭に熱くなってくれたことだけでうれしかった。全員に赤禪を着けさせてやりたかった。そうおもうと胸の中に込み上げてくるものを押さえ切れなかった。明日、明後日はもう戦いは忘れて祭りを楽しんでくれよ、ちょうどそんな風に1年生を労ってやりたかった。

〈回想・樽御輿〉

寮祭に入る前から僕ら実行委員には心配事があった。それは新入寮1年生が少なくて、御輿を担げるのかと言う事だった。例年に比べて30人減、御輿一つにつき約10人も少ない。しかも去年新調した丸太もそれほど軽くはなっていない。本当に大丈夫であろうか。

そして前夜祭終了後1年生が寝静まった後、御輿の輸送が始まる。この時ばかりは実行委員が御輿を担いでトラックまで運ぶ。肩に快い痛みが感じられる。昨年の事を思い出してしまう。そう言えば台風直撃で雨

が降っていたなァ。でも今年は晴れて欲しいな、と思いつつ朝を迎えた。

いざ当日、天気は快晴。気合いを入れて須崎公園に向かう。午後2時、いよいよ出発、今年は巻頭言も1発で決めた。頭数が少なくとも、今年の1年生はやってくれる、前夜祭後から僕はそう信じていた。さあ、出発。実行委員を御輿の上に立てて。1年生は実行委員を振り落とそうと揺さぶる。しかし落ちるわけにはいかない。それでも1年生を煽りに煽る。御輿に乗った気分？ それはもう言い表しようの無いものである。



〈回想・後夜祭〉

田島寮祭の後夜祭と言え、この1ヶ月間寮祭にうちこんできた者の魂を癒すようなものである。1年生は来年への気合いを見せ、寮祭をいとおしく思い泣き、叫び、美酒に酔う。2年の実行委員は・・・、酒が彼らを解き放ったかのように涙を流す。お前ら泣くな、と周りに檄を飛ばしながらも、溢れる涙を押さえることは出来ない。まあ、いいさ。今夜は好きにすれば。

〈最後に〉

この場をかりてひとことお礼を言いたいと思う。第42回九州大学田島寮祭がこんなにも素晴らしいものに終わって僕はほんとうにうれしくおもう。感動がありがとう、一緒に作り上げてきた仲間よ、忘れる事の出来ない季節になりそうである。田島の血を受け継ぐ後輩たちよ、来年も・・・。

バドミントン部について

理学部2年 ^{わき}脇 ^た田 ^{けん}健 ^{いち}一

○はじめに

みなさんはバドミントンをしたことはありますか。たいていの人は学校の授業で、あるいは道端でやったことがあるでしょう。しかし、ルールや競技の内容はよく知らない人がほとんどでしょう。実際、放送されるのは年に1～2回、NHKの教育テレビだけです。全国的、世界的に見てバドミントンはマイナーなスポーツの一つに入ります（インドネシアでは国技）。



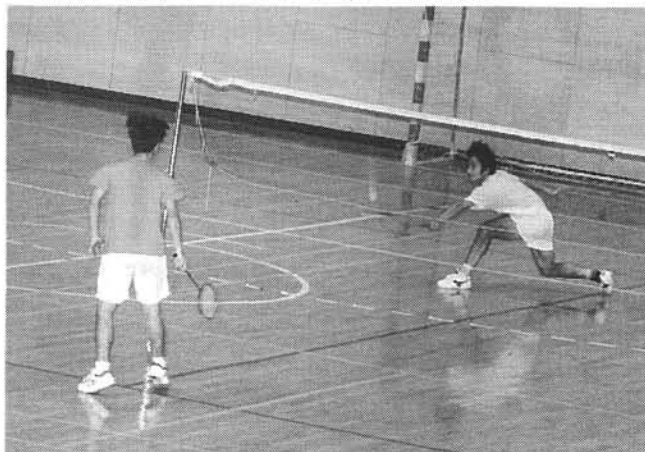
○第二に

ここでバドミンントンのルールについて簡単に説明します。15点3ゲームで1セットです。2ゲームとった方が勝ち。得点はサービス権をもって決めれば1点入ります。こまかなことはありますがこれぐらいにとどめておきます。



○第三に

我が部は男女あわせ40名くらいいます。練習は男女一緒に練習しています。私たちは勝つために練習しているので当然きついです。日曜祝日以外は毎日練習、時間は平日で5時～9時までです。HARDなので学校の授業をおろそかにするほか仕方がない人が多いです。それほどバドミントンにける情熱が強い人の集まりなのです。部活をしないでバイトにあけくれる人たちとは違うというプライドがあります。



○第四に

私たちの休日の過ごし方はバイキングです。それは数名の人がグループでよくやっているようです。後の楽しみは遠征で全国各地に行けることでしょうか。年に7回ほどあります。

相撲愛好会の廃部危機

九州大学相撲愛好会主将 理学部4年 木村 洋之^{きむら ひろ ゆき}

皆さん初めまして。九大相撲愛好会主将の木村です。九月になり残暑のきびしい今日この頃ですが、今回はある意味で九大一暑苦しいサークル、九大相撲愛好会について紹介させていただきます。

まず、会の概要を説明しましょう。現在創立4年目で部員数5名、団体戦のメンバー1セットがやっとそろぐらいです。練習は水曜日から土曜日までの週4回、18時から21時まで福岡武道館内の土俵でやっています。練習内容は四股、鉄砲、腕立てふせ、ぶつかり稽古、三番稽古といったところです。重要な大会は全国国公立大学選手権、西日本学生相撲選手権、体重別選手権、インカレの年4回です。

さて、我々相撲愛好会は常に部員不足に悩まされています。なぜこんなに相撲というスポーツが人気がないのか、理由は色々あるでしょう。独特のスタイルとか世界観であるとか。まあ、そんなわけで我々は毎年勧誘には苦勞しているのです。

実をいうと、今年は非常にきわどい年でした。去年まで我々の会は4年生が4人、3年生が1人でしたが、今年は1人、つまり私ですが、になってしまったのです。私が相撲愛好会に入ってから以来、誰も入部してこなかったのです。一人では四股をふむことくらいしかできません。

私は多少ヤケになって、もし今年も誰も入らなかったら剣道でもしようかと思って、木刀を買い、毎日素振りをしていました。私の素振りは普通の素振りとはちょっと違います。タイヤを固定し、それをひたすら打ち続けるのです。八双に似た構えで、蜻蛉の構えと言うのですが、右手を天に向かって真っ直ぐのばし、左手を右肘に添えるという形です。この構えでタイヤを左右に打ち続けます。木刀を振るときには同時に腰を膝がつくまで下ろします。この稽古は素振りとスクワットを同時にやっているようなもので、示現流一派で野太刀自顕流の続け打ちという練習法です。昔の人はこの稽古を朝三千本、夜八千本やったと言われていますが、私は三千回ぐらいでクタクタになってしまいます。

我々相撲愛好会の知名度はそう低くはないと思うのですが、にもかかわらず部員がいないのは我々の愛好会に対するイメージが悪いからでしょうか。新入生の前で黙って四股をふんだりしたのが悪かったのでしょうか。マワシ姿の男が黙々と四股をふむのは我々にとっては自然な姿でも、新入生にとっては不気味だったのかもしれない。

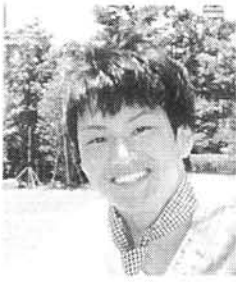


とにかく、示現流の一人稽古をしなければならないほど相撲愛好会は危機的状況でした。そんな時です。NHKから九大相撲愛好会について取材させてほしいという依頼があったのは。

稽古風景を撮ってもらい、相撲の魅力は何かという難しい質問にも答えました。そして、その結果をみて驚きました。さすが天下のNHKです。編集されて、これ以上ないくらいに、私がいい男に映っているではないですか。みていて恥ずかしいほどでした。

我々はNHKに後押しされる形で、一生懸命に勧誘をしました。熱心な勧誘で3人が新たに入会し、九大相撲愛好会は潰れずにすみました。そして現在では大会で好成績を残すことを夢見て、新入部員とともに四股をふんでいるのです。

我々の話は電波によって全国にも流れたそうです。



Welcome to our 書道部

書道部部长 工学部3年 ^{おお}太 ^た田 ^{さとし}星

○書道とは

文字は元来人に用件を伝えるために用いられていました。しかし人は、その文字を駆使し読む人に感動をも与えるようになりました。読む書から見る書へ、その中でさまざまな書体が生まれてきました。

皆さん、習字はご存じでしょう。先生が書いてくれた手本を見ながらその通りに写す。誰もがきれいな字を書くことにあこがれて、小さい頃習っていたのではないのでしょうか。そう習字も書道の1つなのです。

では、本題の「書道とは」ということなのですが、結論から言いますと、分かりません、すみません……。いや、全く分かっていないのではなくて、漠然とこういうものだとは分かっているのですが、言葉にするのは難しくて。そう書道とは、頭で考えてやるものではなく、個々の感性で書くものなのだからです。(持論)

白い紙を前にして、心を落ち着かせ一気に書く。同じ題で書かせても、墨の濃さ、線の強弱、個々のくせなどで千差万別の作品ができてしまいます。本人でさえも思いがけない作品ができる場合もあります。やってみなければ分からないのです。と、いうことで書道をやってみませんか?(どういうことやねん!)

スポーツは、肉体と精神を鍛えることができますが、書道(美術)は自己の感性を育て豊かにすることができますよ。



卒業コンパ



春日公園での交流の時に

○書道部について

書道部にはさまざまな人たちがいます。熱い人・濃ゆい人・えぐい人 etc…。九州の人たちが集まるとどうしてもこうなります。どこの部も似た様な感じではないでしょうか?(どこの部の紹介やねん!)

うちの部ですが、良く言えばアットホームで和やかな感じ、悪く言えば、いいかげんな部、と、まーこんな感じです。こんな一言で片付けてしまってはよく分からないでしょうから、もっと詳しく行事・練習等について述べます。

うちの部は、基本的には何をやっていても許されます。ですから、練習中、レポートを書いている奴がいたり、ただずっとしゃべり続けているだけの人がいたりと幹事の僕が言うのも何なんですけど、変な部なのです。そんなんで上達するの? と言われそうですが、学祭での展示会ではきちんとした作品をみんな出すんです。不思議な部なのです。

行事としましては先程挙げた学祭、その他花見やスケート、そして一番多いのがコンパですね…。一番思い出に残るのは、やはり学祭です。うちの部は書展と模擬店の2つを学祭でします。他の部より2倍大変ですが、その分楽しさも倍です。そして忘れていけないのが他大学との交流。うちの部はけっこう盛んです。運動会みたいのもやってます。楽しそうでしょう?

これまで挙げた行事等、参加するもしないも個人の自由にしてますが、大学では積極性が求められる所。ということで書道部へぜひ。一度のぞいてみて下さい。



パレード、開会式、そして総合優勝

七大戦実行委員長 文学部4年 ^{やま もと なお や} 山 本 直 也



演舞会（市役所前）

1. 圧巻、応援団演武

本誌4月号に引き続き、今回もお邪魔致します。さて、7年ぶりに九大主管で行われる七大戦、6月24日の準硬式野球を皮切りに夏季大会が始まり、大会も半ばに差掛る7月18日に開会式、そしてそれに先立って、応援団によるパレード（明治通り）・演武会（市役所前広場）が行われた。何と今回は演武会場に共催の福岡市からアジア陸上開会式のセットを提供して頂き、近年希に見る盛大なものになった。多くの市民が足を



応援団によるパレード（明治通り）

止め、しばし見入っているような光景もあり、市民へのアピールという趣旨にも十分合致するものであったと思っている。また、応援団を支援してやりたいという杉岡総長たってのご希望により、応援団への表彰という企画も初めて行い非常に好評を得た。毒舌で知られる東大総長からまで、一応パレードに対するお褒めの言葉を頂いたことから今回は成功と言えるものであったと考えている。引き続き行われた開会式では、剣道部の党主将が九大の意気込みを他に知らしめるには十分の気合で優勝宣言した。

2. 総合優勝への道

ところで、宣言はしたものの肝心の総合成績はどうかだったのだろうか。結論から言えば、ご存知のとうり、九大が14年ぶり3度目の総合優勝を果たし、積年の屈辱を雪いだのであるが、その内容たるやまさに神がかり的としか言いようのないものであった。

冬季、春季が終わった時点で、例年通りといおうか、7位を取った昨年と同じペースの6位で夏季大会をむかえ、暗雲立ち込めるといった様相を呈していたのだが、ふたを開けてみるや、硬式野球優勝、準硬式3位、少林寺3位、硬庭・バスケ女子優勝などうなぎ上りに順位を上げ、開会式終了時点で3位であった。そして



少林寺拳法部



剣道部

優勝宣言の党主将率いる剣道部が下馬評通りのアベック優勝を果たし、ついに単独首位に立った。が、それもつかの間、水泳（7位）・陸上（男子5位、女子6位）などが振るわず、例年九大の順位が坂道を転がり落ちるように下がっていくデンジャーゾーン（ハンド・ゴルフ・自動車など）に差掛る前に3位に転落してしまったのである。これでデンジャーゾーンに入ったらどうなるのか…ああ、おわりだ…というのが失礼ながら首脳陣（体育総務）の本心だったのだが、それは杞憂におわった。それからはまさに神がかり的としか言いようがなかった（だって理由が分からないんだモン）。ハンド3位（昨年7位）→ゴルフ2位（5年連続最下位）→自動車優勝（昨年5位）とエスカレーター式に順位を上げ、3種目合計で24点（昨年5点）をたたき出したのである。いや、おそれいった、これからはエスカレーターゾーンと呼ぶことにしよう。

その後3強（九大、名大、京大）の一角、名大が弓道でアベック7位をかまして脱落し、京大もお得意様の洋弓などで優勝を阻まれた（九大2位!）ことから



バレーボール部



ヨット部

（誰も期待してなかった陸上ホッケーの2位も注目に値する）、結局体操競技を残して九大の総合優勝が確定した。

3. おわりに

近年低迷気味の九大体育系サークルだが、この優勝を機に活性化に努め、総長が口を酸っぱくして言われる「強い九大」を目指してほしいものである。



バドミントン部



空手道部

総合科目

相互援助による自分探し

この授業の履修は、入学したばかりの僕らにとって、どんな意味があったのだろう！

縁▼

ここに書ききれない程多くのものを与えてもらったと思う。かけがえのない友人を得ることができた。みんなとこれからずっと付き合っていけたらなあと感じている。心の奥をさらけだして話し合う、こんな経験はめったにできません。本当に良い機会を与えてもらったと感謝している。(今田憲二郎)

出会い▼

「自分とは全く違う考えを持つ多くの人と知り合うことができたこと」がこの授業を履修して最も充実したことだ。この「出会い」を通して、自分の内面を再発見する事ができ、講義名にぴったりと一致する体験をした。こんな「出会い」を与えてくれた講義と仲間に僕は感謝したいと思う。(吉田 礼)

感想▼

特別な動機もないままこの授業に参加しましたが、合宿中のセッションでは友達の色々な思い、悩みを聞き、考える事で、改めて自分を見つめなおす事ができました。セッションで積極的に発言できなかった僕にとって、学部の違う人と友達になれた事が最大の収穫です。今となっては、セッション中の長い沈黙が懐かしく感じられます。(山本 亮)

授業感想▼

この授業で私は自分を見なおし、これからどう過ごしていくかの心構えができたと思う。知り合えた人々の言葉は、考えの凝り固まった私には、まったく違う視野を垣間見せてくれた。前向きであろうとする彼らの姿勢に、私は自然と内省を促された。これから4年間、そしてその先の人生を、どう歩んで行くのかの一つの指針を得る事ができたと思う。(臼井真奈美)

仲良し▼

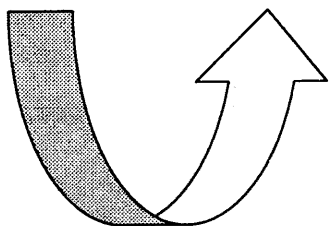
多くの話し合える友人を得ることができました。学部も出身地もバラバラな人達の集まりでしたが、出会ってすぐに自分をさらけ出したことが、その後の付き合いでプラスになったように思います。思いがけない出会いを得て、今後も長く付き合いそうな友を得たことが私にとってのこの授業の意味です。(外園智史)

セッション▼

もちろん最初は、この授業で何をやるのか全然分かっていなかった。そして、やった事といえばセッションだった。僕は小学校の頃からディベートで一度も自ら発言したことがなかったが、今回もそうだった。でも、みんなの話す事を、悩みや不安を聞くだけで、自分の心が動かされた気がする。(香月 真)

おしゃべりと
語り合うこと

何が違うのだろう



私にとって▼

初めてあんなに人前で自分の思っていることを表現し、そしてあんなにたくさんの人達の意見を聞いた。何かが確実に変わった。言葉を通して理解し合い、自分を発見していくことを学んだ。九重合宿のように密度の濃い時間はそうは体験できない。(松野左和子)

援助された私▼

授業での話し合いの中では、自分の意見をうまく言えずにもどかしい思いをすることもあった。しかし、みんなの色々な考えや悩みを聞いて自分を前より客観的にみられるようになり、なぜか心が癒されるのを感じた。私はこの授業で明らかに班のみんなから精神的援助を受けた。この経験は、今後大学生活を送っていく上でも大きな糧になると思う。 (金子麻奈美)

考え悩むこと▼

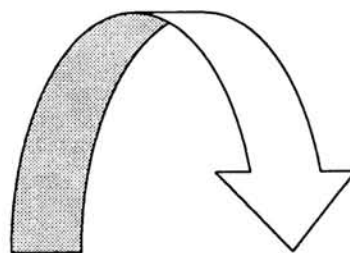
みんな「悩」んでいるのだなと思った。今まで何も考えず、適当に生きてきた自分には真剣に生きている人の姿はショックだった。自分や他人のことを少しずつ考えるようにしてきた。そのように考え悩むことはこの大学生活、又は人生において必ず役立つと思う。友人が増えたのも嬉しかった。 (行實啓樹)



まだこの頃は… (九重での散策の時)

与えられたもの▼

いつからか私は目の前にある嫌な事、煩わしい事を考えないようにする癖がついていました。この授業は忘れてしまったものを思い出させ、面と向き合う機会を与えてくれたと思います。何よりもそこで知り合った仲間達は普通の友達とちょっと種類の違う大切な人達となりました。この授業は他の授業にはない「味」を持っていると感じました。 (権藤由紀)



交換されるのが
知識でもなく
情報でもなく

私の
体験だから
……かな？

この授業に感謝▼

全然知らない人達と自分の考えの深いところまで話をするなんてことは初めての経験だったけど、とても貴重ですばらしい時間を過ごせた。合宿の後にネットワークを使って話ができたり、皆で遊びに行ったりもしたし、この授業に感謝している。 (江本雄介)

STEP UP!▼

「自己の開拓」が僕のこの授業の意味だ。高校は、いわゆる進学校に通っていたせいもあり学力という外に見える部分を耕していた。グループのメンバーと実際にセッションしたのは3日足らずなのに、見違えるほど自分が大きく深くなったと思った。 (山下哲嗣)

この授業を受けて▼

大学生となって目まぐるしい程の新たな出会いを経験し、そんな今だからこそ気付いた様々とまどいや疑念を口にした時に、皆が自分の考えなどをありのままに語ってくれた。その未知の価値観との出会いは私にとって大変貴重なものでした。 (廣川百合香)

この授業に参加して▼

初対面の人達に自分の意見を言えるのかとても不安でしたが、意外に初対面だからこそ自分を作りたてずに普段言わない様な悩みまで話し合えた気がします。この授業は自分自身について、相手の事についてじっくりと考える機会になり、いい体験になりました。私には、この授業を一生忘れる事はないだろうと思える程心に残りました。 (篠 由紀)

これからもずっと…▼

慣れない話し合いは長時間に及び大変だったが、今まで無視していた自分の性格や、他人の自分とは異なる考え方を発見できた。他人と話し合っても意味はないと思っていた僕も大きく進歩することができ、友達も増え、最高の授業だったと思う。 (浜中喜裕)

不思議な授業だった▼

みんなの考え方や個性に驚いたり、うらやんだりした一学期でした。わざと、ぼんやり生活していたので、最初、特に自分のことを考えるのは、しんどかったし恥ずかしかったです。これからも会議室は続いていくそうなので楽しみなようで不安です。この不思議な授業を受けて、いろいろ変わりました。 (高田千鶴)

授業の意味とその後▼

公の場では扱いにくく、個人的にも話しにくい問題について、授業という場を借りて話し合え、「他の人」の意味を確かめることができた。一人よがりの答えに固執していた私ですが、個人では考えられない幅広い意見を聞けて大変驚き、感動しました。少し視野が広がった気がする今日この頃です。 (齋藤映介)

「自分探し」の結果▼

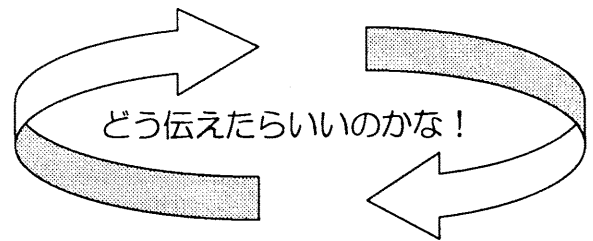
授業を通じて友人関係が広がることを期待していたが、授業から得られたものはそれ以上である。他人の話聞き、自分の意見を述べる。他人と考えが違うときには反論もする。当たり前のことなのだが、今までにない新しい経験だった。以前よりも少し強くなれた気がする。他の仲間感謝したい。 (守部 尚)

「人」から「ひと」へ▼

他人を指す時は「人」で、友人や恋人を指す時には「ひと」というふうに区別している僕の友人に倣うなら、同グループの「人」が次第に「ひと」になっている。自分探しすごく難しいことだけれど、この「ひと」たちがいればやっていけると、信じられるような不思議な邂逅の場でした。 (伊集院尚悟)

「焦り」が「刺激」に▼

安堵と焦りを同時に感じる時間でした。なんだ、みんな似たようなこと考えているんだと安心したり、えっ、こんなことまで考えているのと驚いたり。この焦りはいい刺激でした。考えたことがなかったけど、考えておかなければならないたくさんのことに気づかされ、考えさせられました。メンバーあってのとても価値のある時間でした。 (戸田真由美)

**見知らぬ人との出会い▼**

この授業を終えて思うことは、初めて出会った人とこれほどまでに深く話し合えるのか、ということだ。そこまで行きつくのに時間がかかったにしろ、自分が心を開いて話ができるとてもうれしかったし、共感することも多々あった。出会いには、自分を変える力があると感じ、とても新鮮であった。 (加藤 剛)

「生き様」というもの▼

誰が何をしろというわけではなく、その場の流れで誰かがぼつぼつ自分を語っていく。沈黙が続いたり、議論がとびかったり、笑いがおこったり。そういう不思議な時間の中で私はたくさんの生き様を見ることができた。この授業はたくさんの友人と、たくさんの可能性を与えてくれた。 (寒竹泉美)

もうあと何人か分の自分▼

ただ一人だと思いこんでしまっていた自分というのが、語り合ううちにどんどん増えてきて、もうあと何人か分の自分を手に入れた気分。その中の誰かではなくてはならないわけではなく、誰でもいいのだと気付いた時の爽快感。これからも、もっと多くの自分と出会えそうな期待感。 (岩下雄二)

「自分探し」に参加して▼

合宿に参加する前、私には大学に馴染める自信がありませんでした。けれど、この授業を受け、自分以外の人の悩みを聞き、ありのままの素直な自分でのことの大切さをわかったと思います。自分が探せたかどうか分かりませんが…。また、自分の意見をはっきりと言えたことがよかったです。(本田幸子)

九重合宿を終えた後の自分▼

一番の収穫は、「自分らしさとは何か?」という疑問に、自分なりに一応の結論を出すことができたことである。「自分らしさ」についての答えは簡単に出せないかもしれないし、成長するにしたがって変わっていくだろうけど、今のところは友人関係もよい感じで、その結論に満足している。(桑名宏輔)

新たな自分を作り続けること▼

僕は今までこんな風にじっくりと人の悩みについて聞いたことがなかった。この授業でたくさん人と話せたことで、今まで心で漠然とし、苦しいが何が何だかわからなかった悩みを形にできたような気がする。それが、また再び自分を探す足がかりや活力ある行き方を創り出すきっかけになると思う。(土谷和寛)

本音で話せる友人に会えたこと▼

グループの皆で自分を隠さずに本音で話し合える機会に恵まれたことは大きな収穫でした。初対面ということもあり何を話して良いのか戸惑いましたが、段々一人一人がどういう人なのかがわかってきて、まるで何年も友達でいるように親しくなれたことは素晴らしいことだと思いました。(道行理枝)

五月病の特効薬となったこの授業▼

私はこの授業で何でも真剣に話し合える友達を得たことにより私の悩みにも一応の解決策が得られ五月病を吹き飛ばすことができました。自分自身を再発見することが出来たように思います。この授業は私の大学生活を大きく変えました。グループのみなさん、ありがとう。(関根 昇)

大学生活の始めに落ち着きを得た▼

受験を乗り越えてやっと入学できた大学だけど、学部選びなどもおおざっぱなもので、大学に対しての目的がはっきりせず、自分に自信がもてなかった。でもこの授業のグループワークで、だんだんと自分の中で整理がつきはじめ落ち着く事ができました。参加して本当によかったです。(吉野貴博)

この授業を受けて何が変わったか▼

何をするにも、あまり恐がらなくなった。グループの中で、思いきって自分のことを語ってみたからだと思う。気付くと、今まで変にこだわっていたことから少し抜け出すことができていた。内容だけでなく、それぞれの語り方も違っていて、一人ひとりの個性が少し伝わってきた気がした。(室谷暁子)

他学部の人と知り合える貴重な授業▼

僕は、サークルや部活などなにも所属していないので、当然他学部の知り合いはほとんどいません。でもこの授業をたまたまとれたおかげで、思いもよらない知り合いができました。他の授業だけだったら、今の僕の貴重な同級生ネットワークができあがっていたかどうか分かりません。(平仁田尊人)



これからも ケイシックス 「Kay6」BBSで

他人に頼ることは恥？

— 学生生活・修学相談室のご案内 —

暑かった夏も終わり、前期試験も終了し、もう秋ですね。みなさんいかがお過ごしでしょう。大学に入学してアッという間に半年が過ぎてしまったなあ、と思っている人も多いんじゃないでしょうか。あるいは、入学してもう何年目かのこの時期という人も読んでおられるかもしれませんが、本当に月日の経つのは早いものです。そして、アッという間に卒業です。本当に。いったい何をして自分は生きていこう、どんな人生を創っていこう、そんなことを是非毎日の生活のなかで考え、じっくりと探っていってほしいと思います。

私たち学生生活・修学相談室でカウンセリングを担当している教官（常任相談員）は、みなさんがそうやって自分の人生を考え、いったい自分はどんな人間なのか、何の専門家になろうとしているのか、どんな勉強がしたいと思っているのか、将来何ができるんだろうか、といった疑問にぶつかったとき、それをともに考える仕事をしています。大学生になって一人前の大人としての自分を見つけないと思いませんか。自分の性格、友だちや恋人とのつきあいや家族のこと、先生がたとの関わり、アルバイト先でのふるまいなどをふりかえって考えてみたいと思いませんか。

そんなふうに思ったら、その一つ的手段として私たちのところに相談に来てみることを是非おすすめしたいと思います。相談室というと、みんな少し誤解があって、相談に行くことはすなわち自分一人の力ではもうどうにも新しい考えが見い出せなくなったとき最後にたよりに行くもの、という感じをもっているような気がします。だから、自立した学生生活を送るには必要のないものと考えているように感じられるのです。相談室に頼ること、他人に頼ることは、自立できていない自分を自分自身に突きつける証拠のように感じられるところがどこかあるのでしょうか。でも本当のところ、そういう最後の砦として私たちがいるのではありません。

自分のことで考えてみたいと思っている課題は、自分自身にとっても未知の心の領域に関わりますから、そこを考えてみることに何が飛び出してくるか分か



らない不安もつきまといます。自分の能力の限界に気づいて自信喪失に陥ることもままあります。ですから、それを他人とともに考えることには、いささかの抵抗があって当たり前ですし、だいたい相談に行くというのはそれ自体そういう点で勇気のいる仕事です。

自立するということは、勇気を出して自分のことを他人に相談しつつ、最後は自分が自分を引き受け、自分の責任において行動するのだという自覚をもち続けるということでもあります。はじめから何でも一人で抱え込むことが自立ということではありません。それは孤立へとつながってしまいます。他人に頼っても、それが全面依存になるのではなく自分が自分であることに変わりないこと、それが自立です。

一人で孤立して問題を抱え込んでしまうのではなく、自分の課題をともに考えてくれる他人と共有できること。そういった他者との関わり自体、その人自身に固有の乗り越え策を生み出す大きい原動力となります。そういう点で、友だちともおおいに話し合ってみるとよいし、先輩やいろいろな先生に話してみることも意味があるでしょう。そして、そういった場の一つとして相談室があるのです。

他人に頼ることは決して恥ではありません。いろいろな頼れる資源を活用し、自分にとってよりよい自立の道を探っていってください。

（常任相談員（カウンセラー）濱野 清志）

—相談したいときは—

「学生生活・修学相談室受付事務室」（六本松地区本館1階，下図参照）を直接訪ねるか，あるいは電話で相談の申し込みをしてください。

■ 受付電話番号 726-4806（受付事務 吉田事務職員）

■ 受付時間 9:00～17:00（昼休み 12:00～13:00）

常任相談員の研究室（六本松地区本館1階，下図参照）を直接訪ねてもかまいません。

■ 常任相談員（カウンセラー）・電話番号

吉良安之 726-4804 園田五郎 726-4803 田中健夫 726-4802 濱野清志 726-4805

○相談にあたるカウンセラーの教官（常任相談員）四名は臨床心理学の専門教官です。相談の秘密には十分な配慮をしています。また，修学上の相談で，各学部や研究科の専門的内容の相談（履修の仕方，勉強の仕方，将来の進路など）については，必要に応じて各学部や研究科の相談員の先生方を紹介します。

■ 学生生活・修学相談室のホームページ

相談室のホームページを開設しています。常任相談員の教官がそれぞれの活動やメッセージを載せていますので，是非ごらんになってください。

<http://cg.rc.kyushu-u.ac.jp>

—たとえばこんなこと—

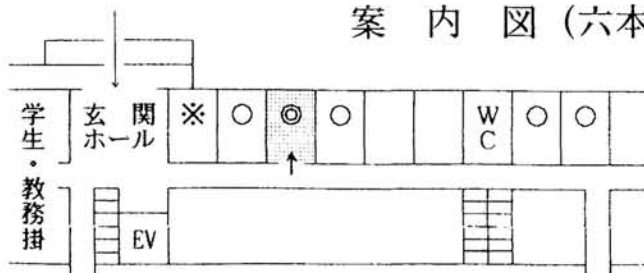
○学生生活上の相談

- ・大学生活になじめない
- ・大学生活の目標をみつけない
- ・自分のあり方や性格について考えたい
- ・なかなか友人ができない
- ・クラスやサークルでの人間関係を改善したい
- ・異性とのつきあいで悩んでいる

○修学上の相談

- ・将来の進路のことを考えたい
- ・勉学への意欲や目的意識が持てない
- ・再受験や転学部など進路変更を考えている
- ・単位が取れなくて不安を感じている
- ・勉強の仕方が分からなくて悩んでいる

案 内 図（六本松地区本館1階）



凡 例

- ◎ 学生生活・修学相談室受付事務室
- 常任相談員（カウンセラー）の研究室
- ※ ブラウジング・ルーム（修学情報の閲覧室）

—各学部・研究科の相談員の先生方—

文学部	竹村 則行	教授	医学部	吉良 潤一	教授	システム情報科学研究科	日高 達	教授
教育学部	野島 一彦	教授	歯学部	古賀 敏比古	教授	比較社会文化研究科		
法学部	大出 良知	教授	薬学部	財津 潔	教授		田中 良之	教授
経済学部	遠藤 雄二	助教授	工学部	久枝 良雄	教授	数理学研究科		
理学部	松岡 修	教授	農学部	松山 倫也	教授		小池 正夫	教授
同	徐 垣	助教授	人間環境学研究科			総合理工学研究科		
同	谷村 禎一	助教授		野島 一彦	教授		武部 博倫	助教授

海外留学説明会の開催について

次のとおり九州大学の平成11年度派遣留学について、第2回目の説明会を開催しますので、留学を希望する方は参加してください。

1 説明会

(1) 日時・場所

箱崎地区

平成10年10月5日(月) 午後3時～

九州大学国際ホール(図書館本館横)

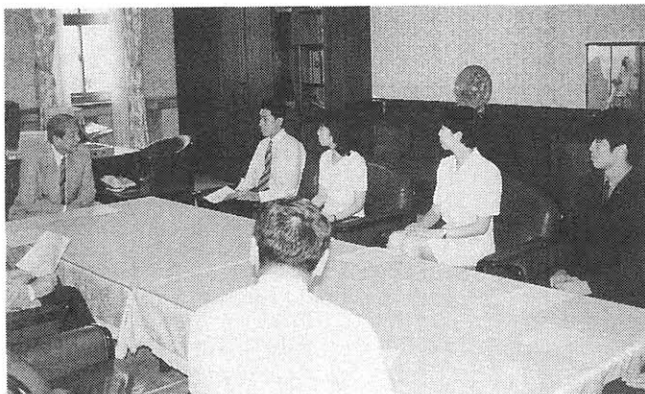
六本松地区

平成10年10月8日(木) 午後3時～

六本松地区本館31番教室

(2) 内 容

- ① 派遣留学の申請手続きについての説明
- ② 選考及び面接の実施についての説明



杉岡総長から激励を受ける派遣留学生

2 九州大学の派遣留学

(1) 派遣先大学

クイーンズランド大学, ミュンヘン大学, 梨花女子大学校, 延世大学校, 西江大学校, ワシントン大学, ミシガン大学, ライス大学, その他。

(2) 留学期間

1年以内(6ヶ月でも可能, ただし単位が取得できる期間)。

(3) 応募資格

九州大学に在学中の学生。

(4) 語学力

学部学生で英語圏の大学の場合は, TOEFL 550点以上が必要です。

(5) 特 典

- ① 学生交流協定に基づく派遣留学生は, 留学先の授業料等が免除になります。
- ② 派遣先大学で取得した単位は, 九州大学の単位として認定される予定です。
- ③ 奨学金及び援助金支給の可能性がります。

3 担 当

九州大学学務部留学生課(留学生センター1階)

電話: 642 - 2141 (東区箱崎6-10-1)

六本松地区教職員異動

(省略)



第42回 田島寮祭 (6頁参照)

投稿, 写真歓迎

- ・編集委員会では, radix への投稿, 紙面を飾る写真を募集しています。六本松地区にまつわる出来事, あなたが関わっている様々な活動, 六本松の思い出など, 記事の内容は六本松地区および六本松に関わる人々に関するものであれば何でも結構です。写真も, キャンパスでのもの, 旅先でのものをはじめ, あなたの作品, 又は是非紹介したいあなたのお知り合いの作品など, 広く募集しております。カラー写真をお寄せください。応募および推薦の対象は, 六本松に関わりのある全ての方です。例えば:

- 九州大学の在学生, 卒業生, 元在生
- 全学共通教育に関わる教職員, 非常勤講師, 職員
- 六本松地区の旧教職員, 旧関係者

- ・記事のアイデアをお寄せください。何か興味深い話や出来事などありましたら, お知らせくだされば編集委員が取材に参ります。

応募, 投稿・推薦は, 以下の者がお受け致します。

radix 編集委員

大河原 (比文) 黒木 (事務部) 小山 (大教セ)
因 (留セ) 西村 (健セ) 濱野 (健セ)
松村 (言文) 山中 (理学部)

六本松地区企画掛 (本館1階奥)

あとがき

福岡空港, その他各地の空港に「ポケモン・ジェット」がとんでいる。デパートやスーパーには, ポケモンのキャラクター商品が並ぶ。「ポケットモンスター」というゲームが, 幼稚園児から小学生を中心にすごい人気をよんでいる。このゲームの目的は, 150種類のポケモンを集め, 究極のポケモン図鑑をつくりあげることである。その過程では, ポケモンを育て, 交換し, 戦わせることがなされるが, その方法たるや無限と思えるほどのバリエーションがあり, 200ページを超える「必勝攻略法」の本として何冊も刊行されているのである。プレイヤーは, それを理解し, フル活用し, 戦略を練る。個性的な創意工夫がないと, 冒険は進まないように仕組みられている。子供の宇宙ってすごいと感心させられてしまった。彼らは, 150種類ものポケモンの名をリズムに乗せてそらんずる。円周率でも, 平方根でも, 歴代天皇の名前でも, オリンピック開催地でも, その暗記はそう簡単ではないのに。

本号は, 七大学定期戦14年ぶりの優勝, 田島寮祭, ワールドカップ等の「写真」で賑わっている。記事と写真をご提供くださった皆様, ありがとうございます。(N)

radix (ラーディクス) No18 (九州大学全学共通教育広報)

発行日 平成10年9月30日

発行所 九州大学大学教育研究センター

〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526 (企画掛)